

船舶事故調査報告書

平成30年6月13日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 佐藤 雄二（部会長）
 委員 田村 兼吉
 委員 岡本 満喜子

事故種類	衝突
発生日時	平成29年6月14日 18時20分ごろ
発生場所	福岡県宗像市沖ノ島北方沖 沖ノ島灯台から真方位359° 9.3海里（M）付近 （概位 北緯34° 23.9′ 東経130° 06.2′）
事故の概要	漁船第七春日丸は、北北西進中、また、漁船明神丸は、錨泊中、 両船が衝突した。 第七春日丸は、船底全面の亀裂を伴う擦過傷等を生じ、また、明神丸は、浸水して沈没した。
事故調査の経過	平成29年6月15日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 漁船 第七春日丸、16.0トン FO2-6566（漁船登録番号）、個人所有 16.70m（Lr）×3.82m×1.54m、FRP ディーゼル機関2基、842kW（合計）、平成17年4月29日 第290-59252号（船舶検査済票の番号） B 漁船 明神丸、5.6トン FO2-6522（漁船登録番号）、個人所有 11.90m（Lr）×2.73m×0.84m、FRP ディーゼル機関、316.3kW、平成6年6月15日 第292-39257号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 32歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成22年4月16日 免許証交付日 平成27年2月23日 （平成32年4月18日まで有効） B 船長B 男性 57歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和63年5月26日 免許証交付日 平成25年4月19日

	(平成30年5月25日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	A 船底全面の亀裂を伴う擦過傷等、左舷推進器軸及び両舷推進器翼の曲損、右舷トリムタブに破損 B 左舷外板に亀裂、沈没（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.3m
事故の経過	<p>A船は、宗像市大島漁港を係留地とするまき網船団（以下「A船団」という。）の探索船であり、船長Aが1人で乗り組み、A船団の集合海域である沖ノ島北方沖に向け、同島北北東方沖を「正船首約2Mを先航する漁船」（以下「本件同航漁船」という。）との距離を保ちながら、約18ノット(kn)の速力（対地速力、以下同じ。）で手動操舵により北北西進した。</p> <p>A船は、船長Aが、操舵室中央の操縦席に腰を掛け、船首が浮上することで正船首から両舷共に約20°の範囲に死角が生じた状態で、レーダーを3～6Mレンジで適宜使用し、また、操舵室両舷の窓を開けて目視で両舷側の見張りを行いながら航行した。</p> <p>A船は、船長Aが、平成29年6月14日18時05分ごろレーダー画面の正船首約5Mに「表示されたり消えたりする小さいレーダー映像」（以下「本件映像」という。）を見て、「しいら漬^{しいら漬}」[*]1 と思い込み、現在の針路及び速力で航行しても支障がなく、また、支障があれば本件同航漁船が避航すると思ったので、本件同航漁船のレーダー映像を見ながら同じ針路及び速力で航行した。</p> <p>A船は、沖ノ島北方沖を北北西進中、船長Aが、本件同航漁船のレーダー映像が船首方約2Mとなった本件映像至近を通過したように見えたので、前路に航行の支障となるものがないと思い航行を続けたところ、18時20分ごろ衝撃を感じた直後にA船が停止した。</p> <p>A船は、船長Aが、両舷の窓から顔を出して周囲を確認したところ、B船の前部甲板に乗り上がった状態を認めて自力で離脱できないと思い、無線でA船団に救援を依頼し、来援した僚船に引き出された後、浸水及び油の流出がないことを確認し、同船にえい航されて係留地に帰った。</p> <p>A船団の他の僚船1隻は、本事故の発生を118番に通報した。</p> <p>B船は、船長B及び甲板員（以下「甲板員B」という。）が乗り組み、長崎県対馬市東方海域であまだい延縄漁を終えた後、17時50分ごろ沖ノ島北方沖約10M、水深約115mの海域で錨泊した。</p> <p>船長Bは、錨泊後、操舵室で目視及びレーダーで錨泊の支障となる</p>

*1 「しいら漬」とは、木枝等を束ねたもの（筏形）を海面に浮かべ、それを隠れ場所にする小魚を餌とするしいらをひき寄せるための漁具である。

	<p>船舶がないこと、及びGPSプロッターによりB船が南西方を向いて止まっていることを確認して機関を停止し、甲板員Bと共に前部甲板で漁獲物の仕分け及び漁具の準備作業を開始した。</p> <p>船長Bは、前部甲板で作業を約15～30分間行った後、操舵室右舷側に設置された操縦席に腰を掛け、左舷方を見たところ、B船の左舷側に向けて高速で接近するA船を見た。</p> <p>船長Bは、衝突のおそれを感じたので、後進してA船を避けるつもりで主機を始動し、注意喚起のために電子ホーンを鳴らしながら全速力後進とした直後、A船がB船の左舷側に衝突して前部甲板に乗り上がったのを認めた。</p> <p>船長B及び甲板員Bは、救命胴衣を着用し、本事故の発生に気付いて救助のために来援した宗像市鐘崎漁港の漁船1隻に後部甲板から乗り移って退船した。</p> <p>B船は、A船が前部甲板上から引き出された後、船首側から沈み始め、18時50分ごろ沈没した。</p> <p>船長B及び甲板員Bは、鐘崎漁港の漁船1隻に同乗して同漁港に帰った。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>船長Aは、本件同航漁船が本件映像至近を通過した後、本件映像の映り方が変化しなかったため、しいら漬と思い込んだ。</p> <p>船長Aは、ふだん、A船の操縦席に腰を掛けた状態で、約18knの速力で航行すれば、船首が浮上することで船首方に死角が生じることを認識しており、また、死角が生じる船首方の見張りをレーダーのみで行っていたが、これまでに危険を感じたことがなかった。</p> <p>船長Aは、A船の船首方に生じる死角の状況、また、死角を補う見張り方法を認識していたので、本件映像を見た際、同席から立ち上がれば、目視で船首方のB船を確認できたと本事故後に思った。</p> <p>船長Bは、前部甲板で作業中、目視で周囲の見張りを行い、操舵室のレーダーを3Mレンジで作動させ、周囲に危険な船舶等を見付ければ、直ちにレーダーで確認できるようにしていた。</p> <p>甲板員Bは、船長BがB船の操舵室に入った後、前部甲板から右舷側を通り同室に移動中、左舷方に高速で接近するA船を見て衝突のおそれを感じたので、船長Bに報告しようと操舵室後方に達したところ、本事故が発生した。</p> <p>B船は、黒色の球形形象物を搭載していたが、船長Bが、本事故時、前部甲板での作業を終えた後に掲げるつもりであったので、使用していなかった。</p>
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与</p> <p>A あり、B あり A あり、B なし</p>

<p>気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>A なし、B なし</p> <p>A 船は、沖ノ島北方沖を北北西進中、船長Aが、前路の本件映像をしいら漬の筏と思い込み、また、本件同航漁船のレーダー映像が、本件映像至近を通過したように見えて前路に航行の支障となるものがないと思い、船首方に生じた死角を補う見張りを適切に行わなかったことから、前路で錨泊中のB船と衝突したものと考えられる。</p> <p>船長Aは、操縦席に腰を掛けた状態で航行すれば、船首方に死角が生じることを認識していたが、これまでに危険を感じたことがなかったことから、本事故当時、ふだんどおりに船首方の見張りをレーダーのみで行い、操縦席から立ち上がって目視で船首方を確認しなかったものと考えられる。</p> <p>B船は、沖ノ島北方沖で錨泊中、船長Bが、前部甲板上で作業を行っているとき、目視で周囲の見張りを行っていたものの、B船の左舷側に向けて高速で接近するA船に気付くのが遅れたことから、避航動作をとることが間に合わず、A船と衝突したものと考えられる。</p> <p>船長Bは、作業を終えて操縦席に戻ったとき、左舷方に高速で接近するA船を見て、衝突のおそれを感じ、注意喚起のために電子ホーンを鳴らしながら主機を全速力後進としてA船を避けようとしたものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、沖ノ島北方沖において、A船が北北西進中、B船が錨泊中、船長Aが、船首方の見張りをレーダーのみで行い、前路に航行の支障となるものがないと思い、船首方に生じた死角を補う見張りを適切に行わず、また、船長Bが、B船の左舷側に向けて高速で接近するA船に気付くのが遅れたため、避航動作をとることが間に合わず、両船が衝突したものと考えられる。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船首が浮上して死角が生じる場合、操縦席から立ち上がり船首を左右に振るなどして死角を補う見張りを行うこと。 ・ レーダーのみならず目視を併用して見張りを適切に行うこと。 ・ 航海用レーダー反射器（レーダーリフレクター）等を装備し、他船がレーダーで確認し易くすることが望ましい。 ・ 錨泊中は、黒色の球形形象物を表示すること。

付図1 事故発生経過概略図

